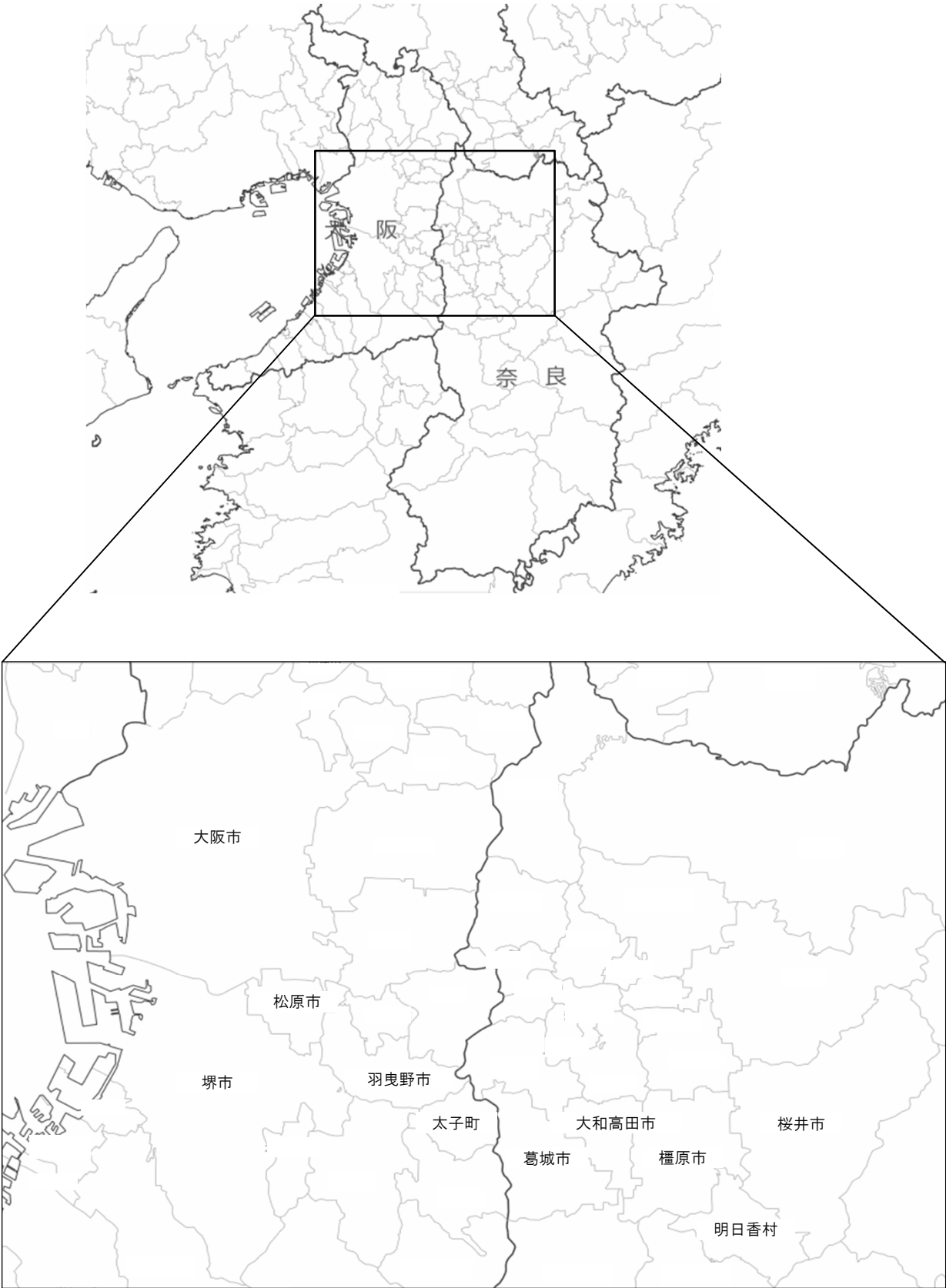


① 申請者	◎大阪府（大阪市、堺市、松原市、羽曳野市、太子町）、 奈良県（葛城市、大和高田市、橿原市、桜井市、明日香村）	② タイプ	地域型 / <span style="border: 1px solid black;">シリアル型</span> A    B    C    D    E
③ タイトル			
1400 年に渡る悠久の歴史を伝える「最古の国道」～竹内街道・横大路（大道）～			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
<p>春分と秋分の日、太陽は三輪山から昇り、二上山を超えて大阪湾に沈む。このことから、推古天皇 21 年（613 年）に東西の直線で敷設された幅 20m を越える大道（竹内街道・横大路）は、太陽の道と言われる。</p> <p>古代には、大陸からの使節団が難波宮から飛鳥京を訪れ、先進技術や仏教文化を伝えた。中世には経済都市を結び、近世には伊勢参りの宿場町としての賑わいを見せ、場所ごとに様々な表情を浮かべる。</p> <p>1400 年の歴史の移り変わりを周辺の歴史遺産を通して感じさせる日本最古の国道。それが竹内街道・横大路(大道)なのである。</p>			
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名	大阪府都市整備部事業管理室事業企画課 課長補佐 眞浦 尚彦		
電 話	0 6 - 6 2 1 0 - 0 3 5 1 (内線)    2 9 6 4	FAX	0 6 - 6 9 4 4 - 6 7 7 3
E-mail	<a href="mailto:MuraN@mbx.pref.osaka.lg.jp">MuraN@mbx.pref.osaka.lg.jp</a>		
住 所	〒540-8570 大阪市中央区大手前 2 丁目 大阪府都市整備部事業管理室事業企画課		



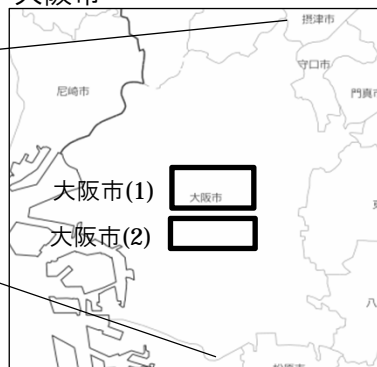


構成文化財の位置図(地図等)

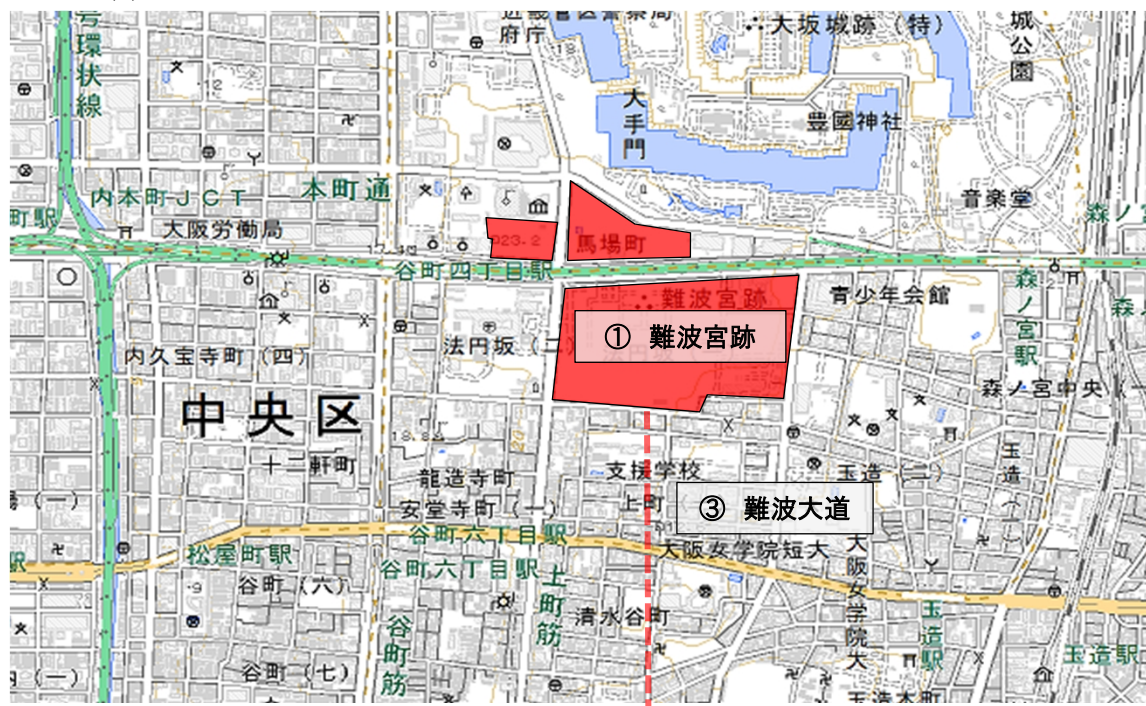
(様式1-2)

大阪府

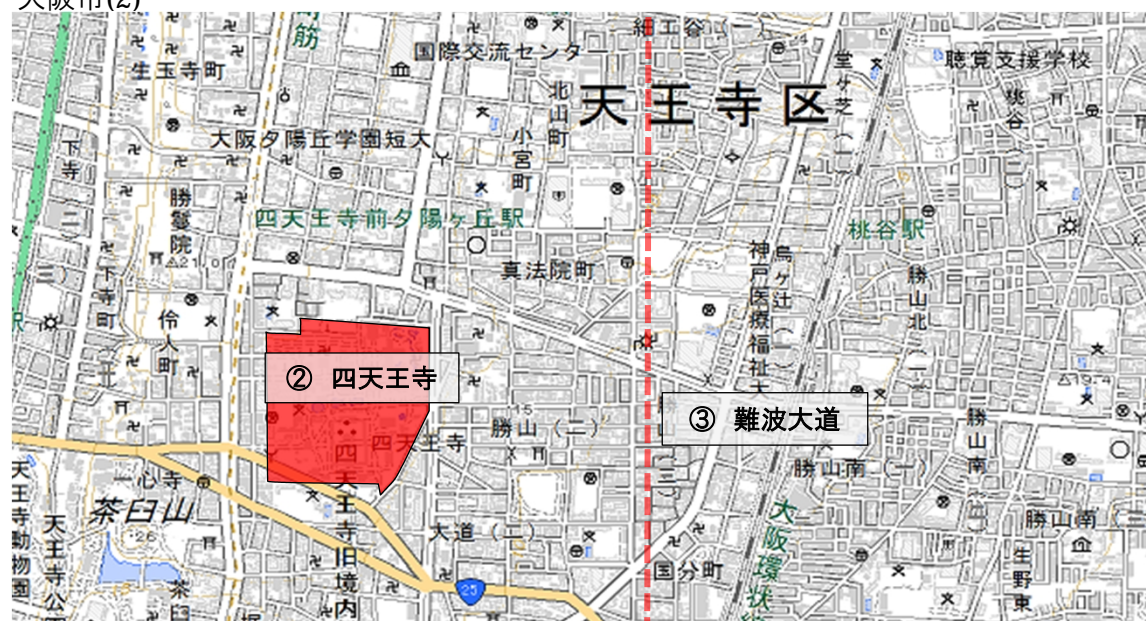
大阪市



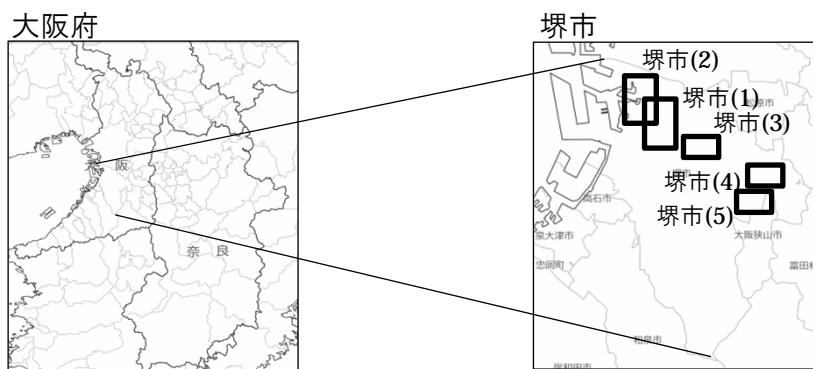
大阪市(1)



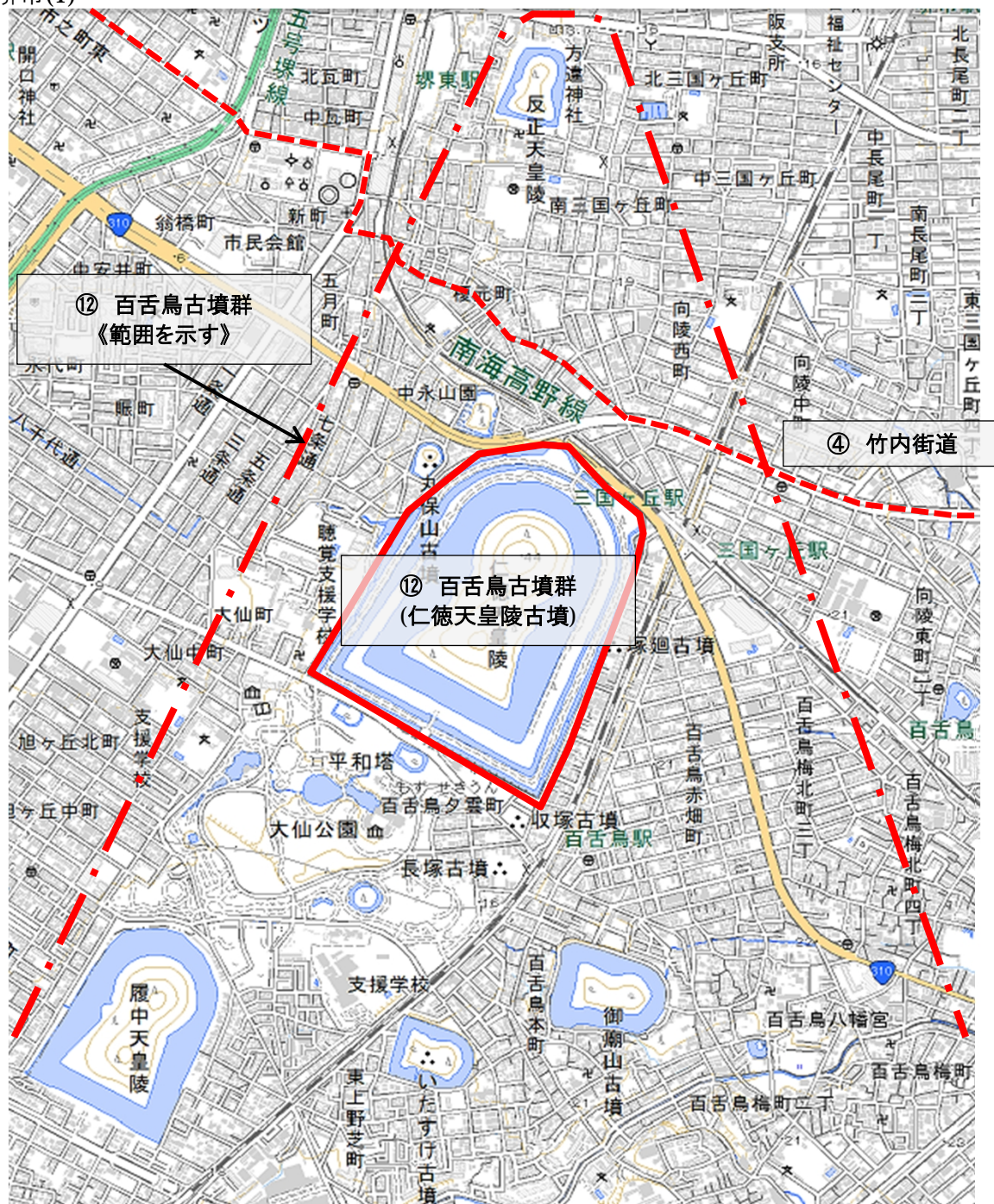
大阪市(2)





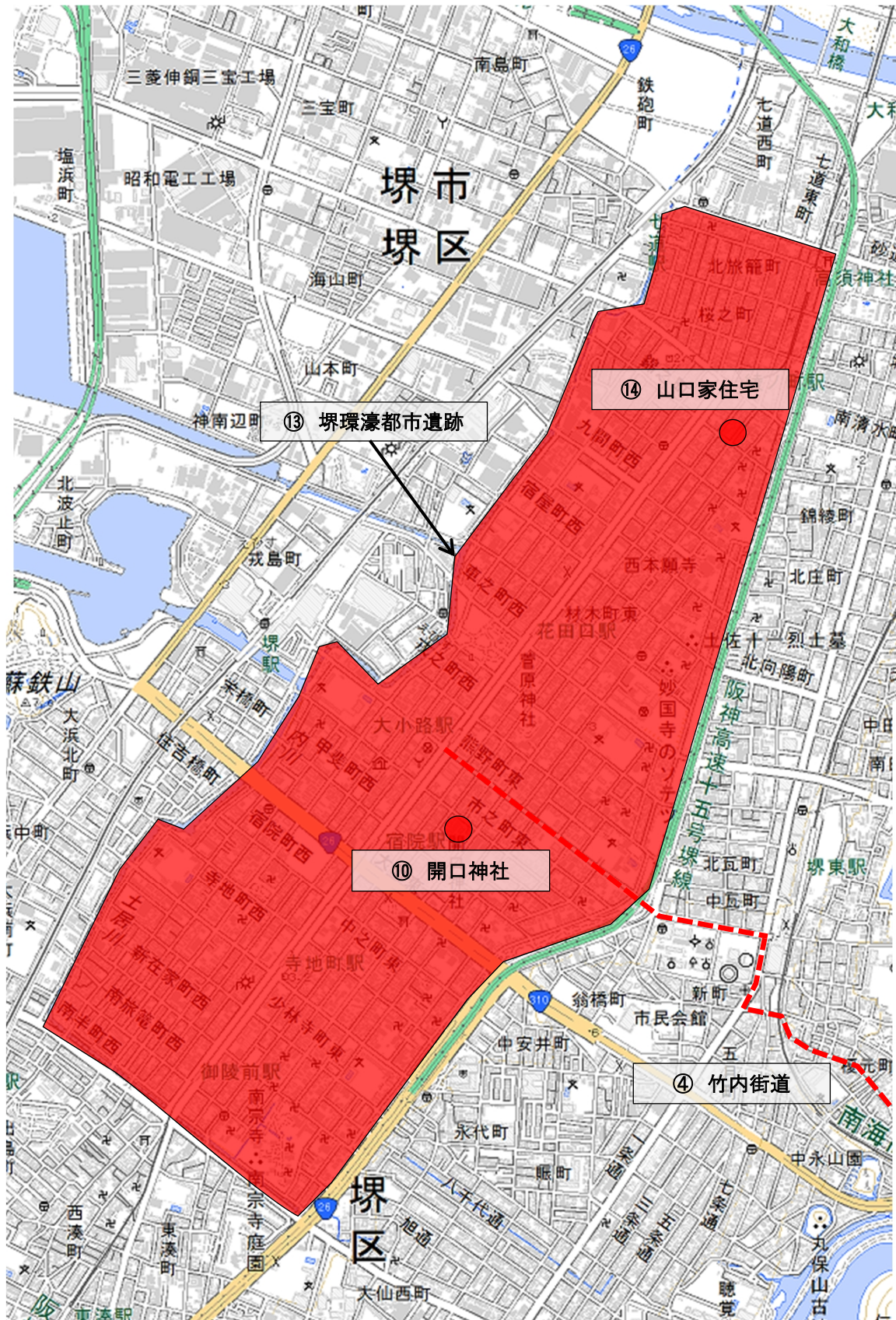


堺市(1)



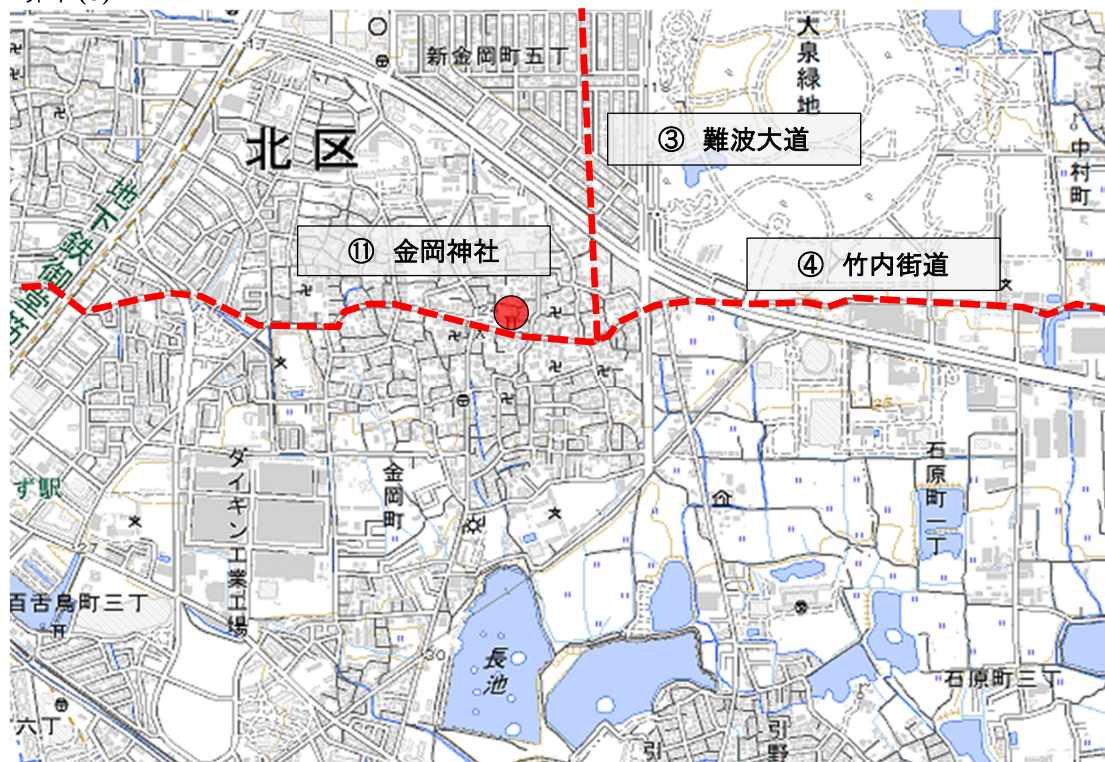


堺市(2)

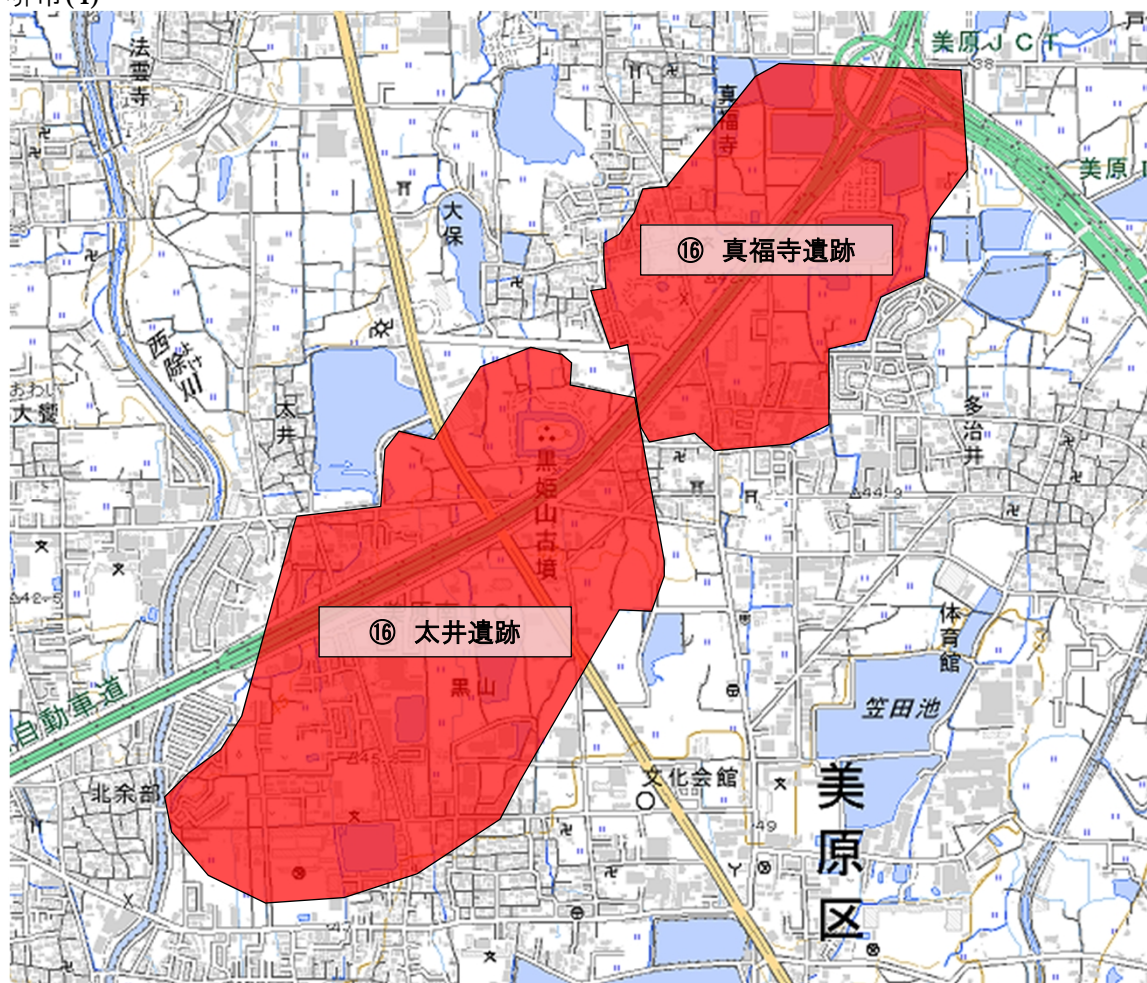




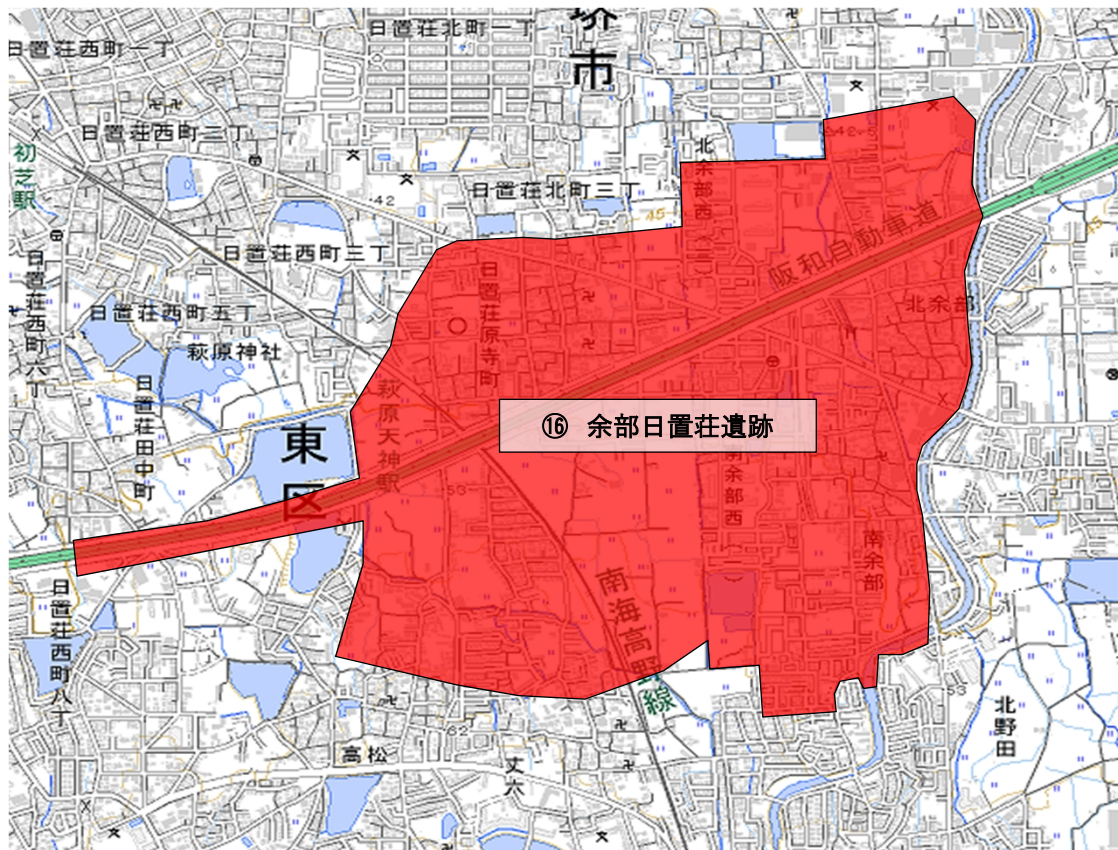
堺市(3)



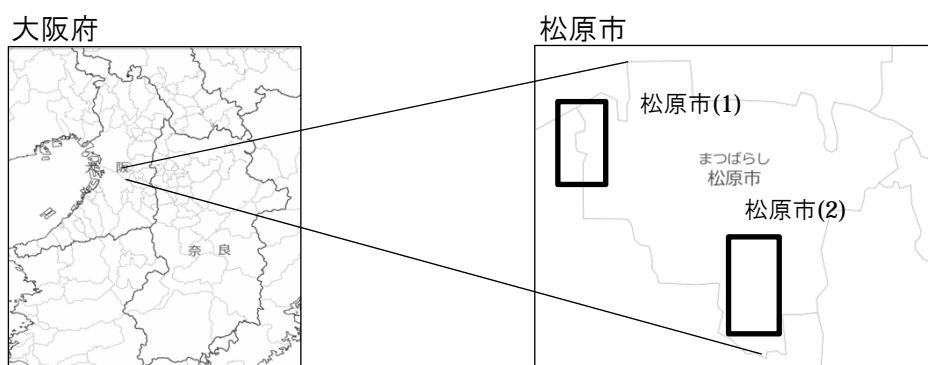
堺市(4)



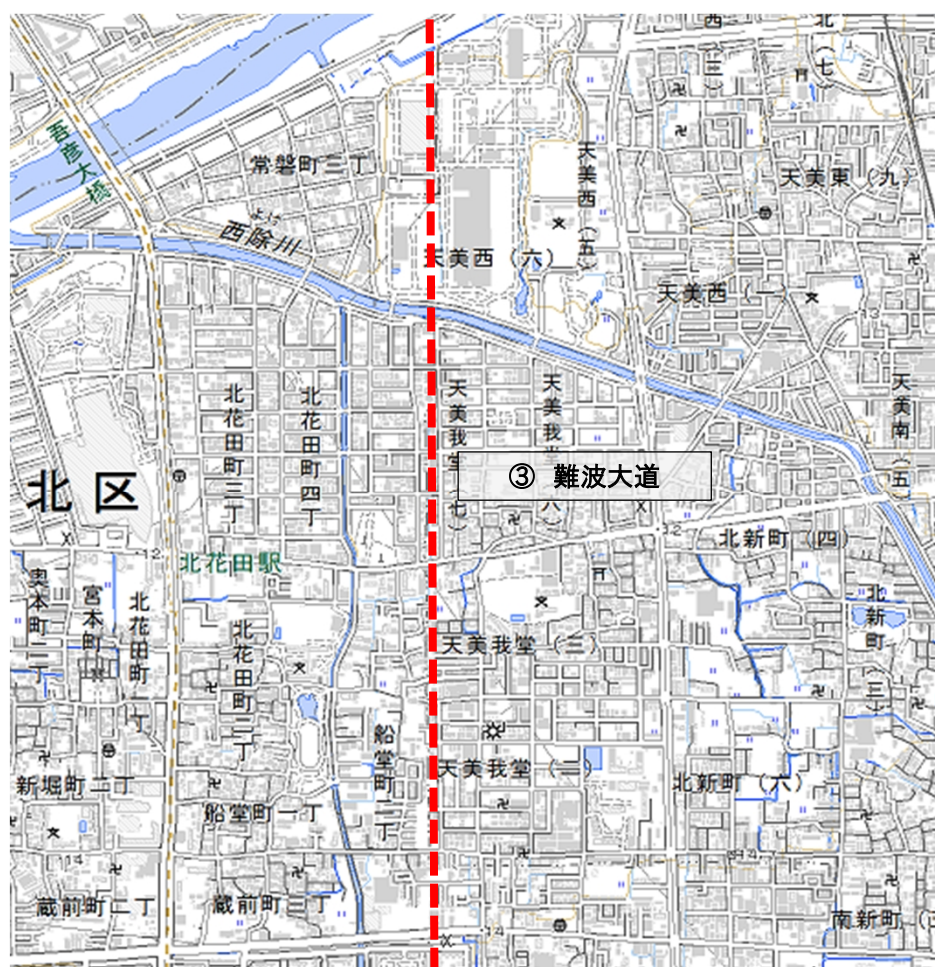
堺市(5)



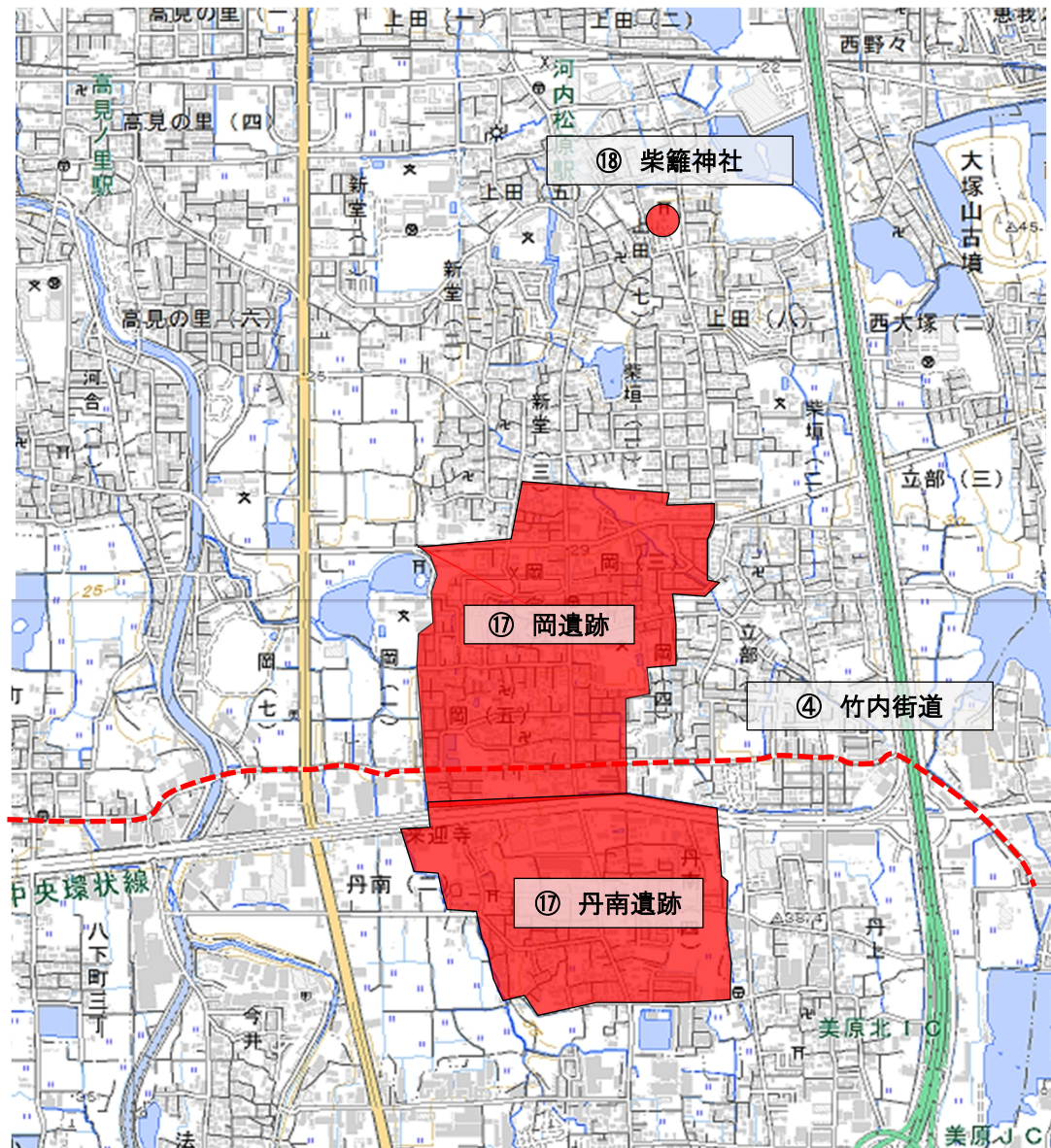




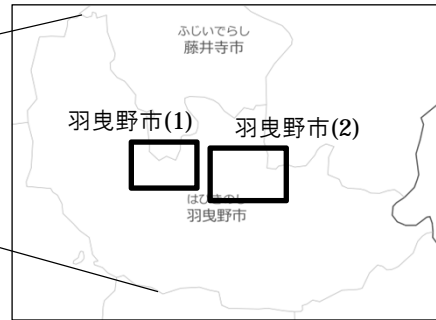
松原市(1)



松原市(2)

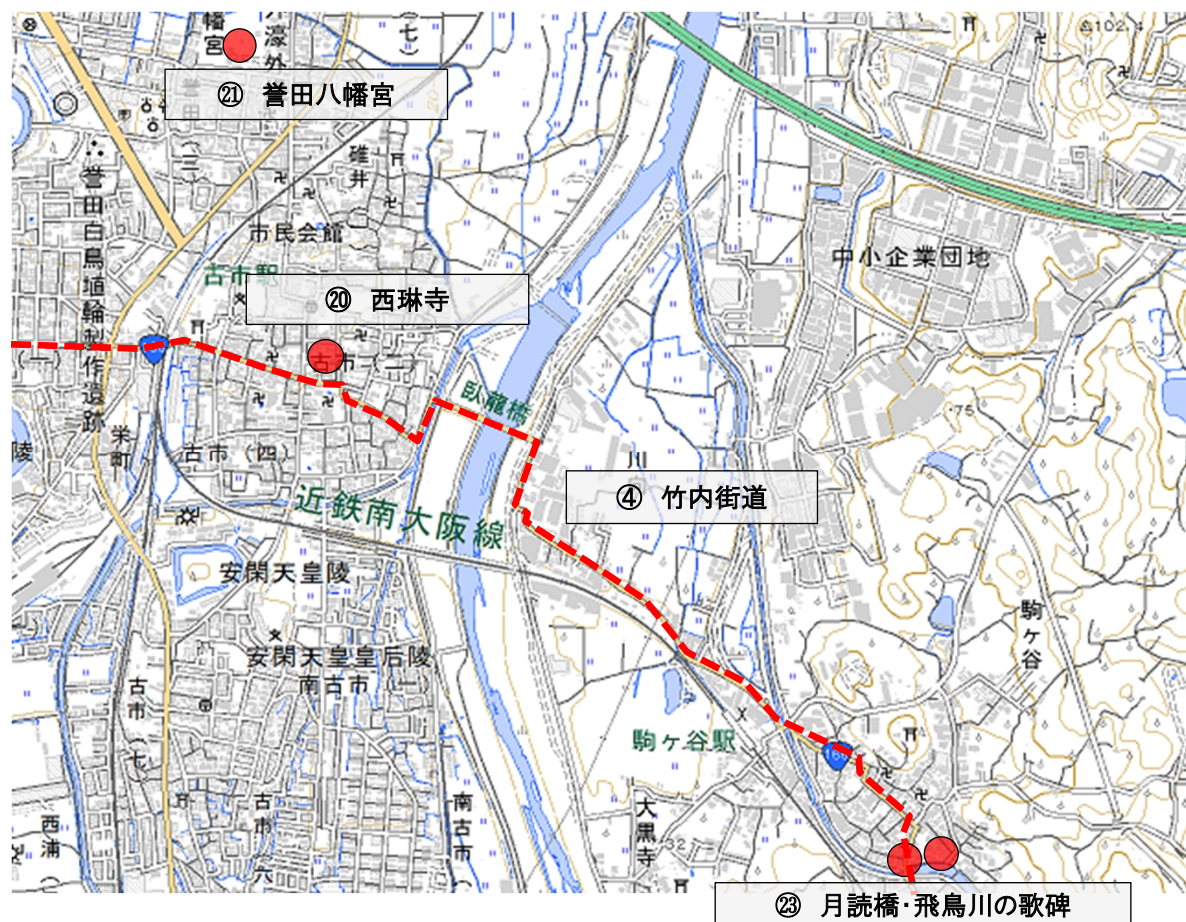








羽曳野市(2)

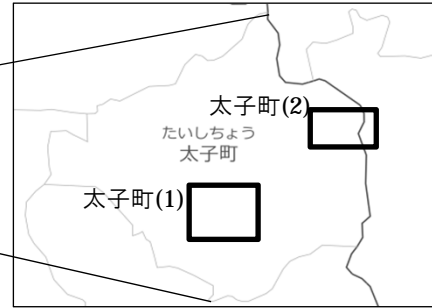




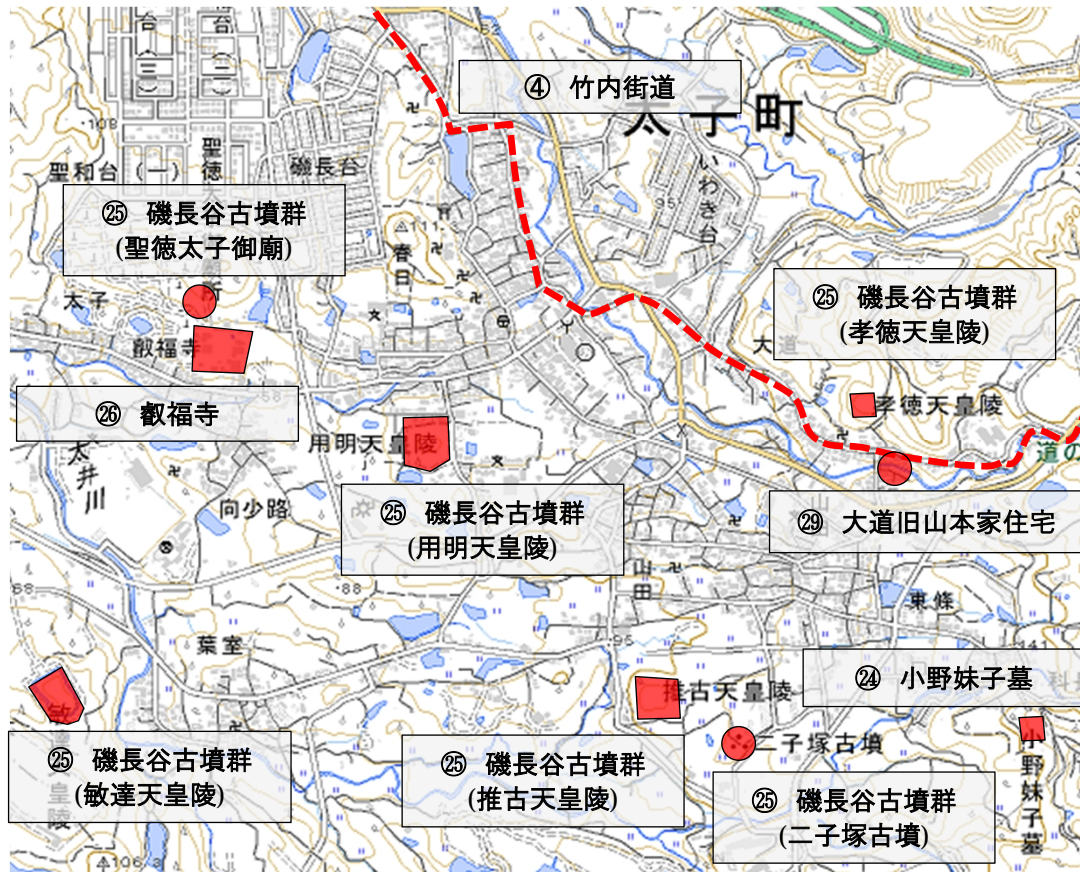
大阪府

太子町

(様式1-2)



太子町(1)

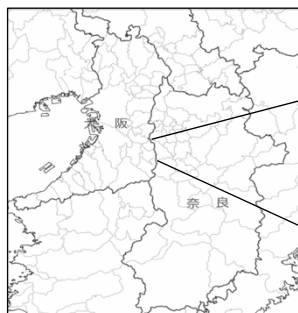


太子町(2)





奈良県



葛城市



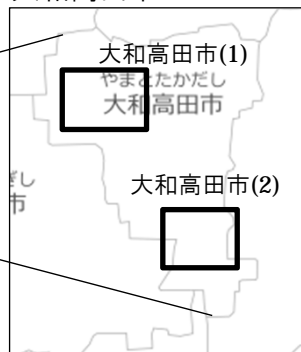
葛城市(1)



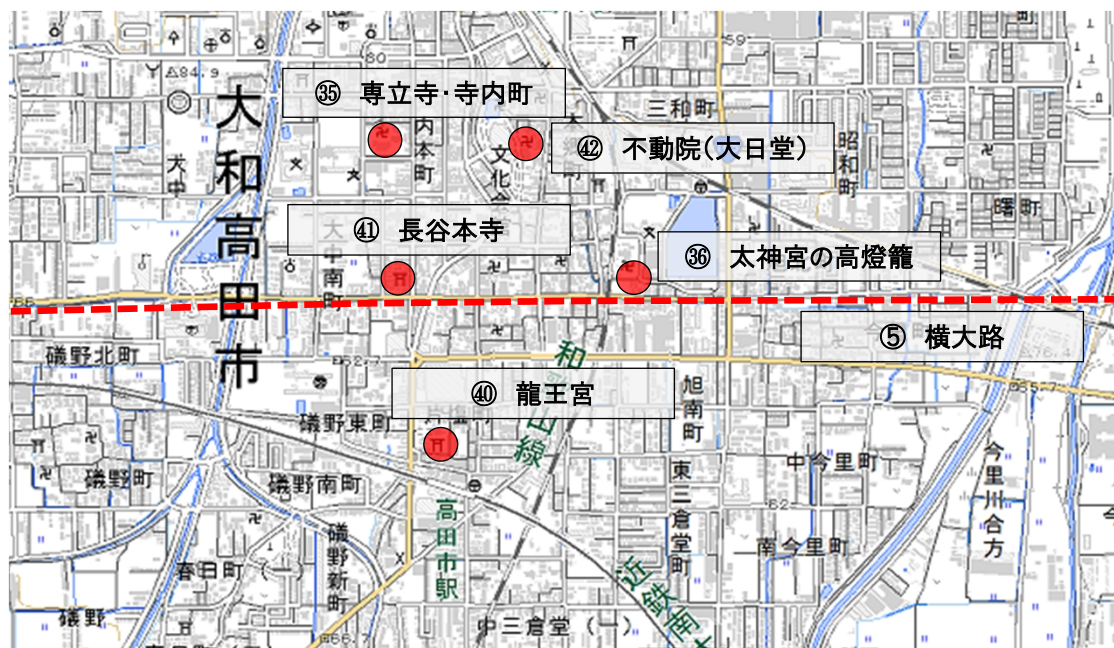
奈良県



大和高田市



大和高田市(1)



大和高田市(2)

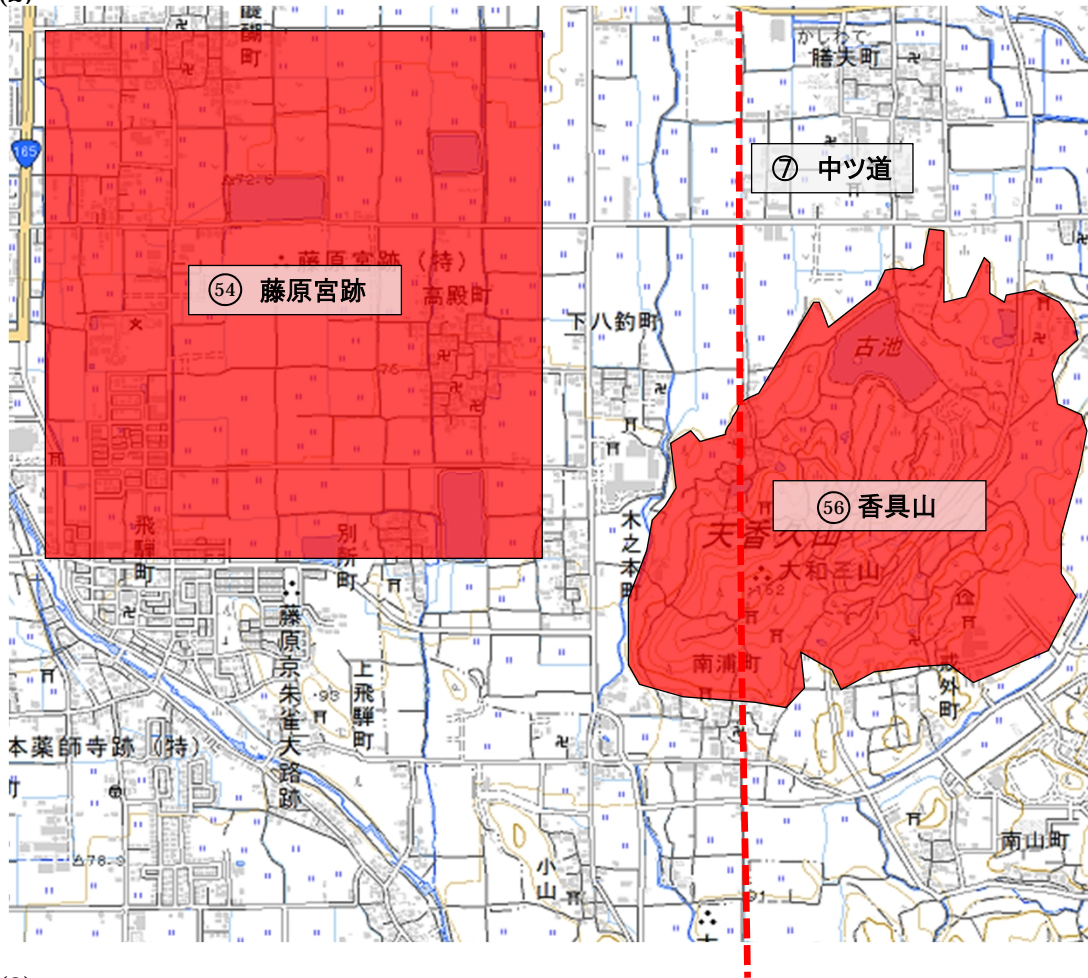




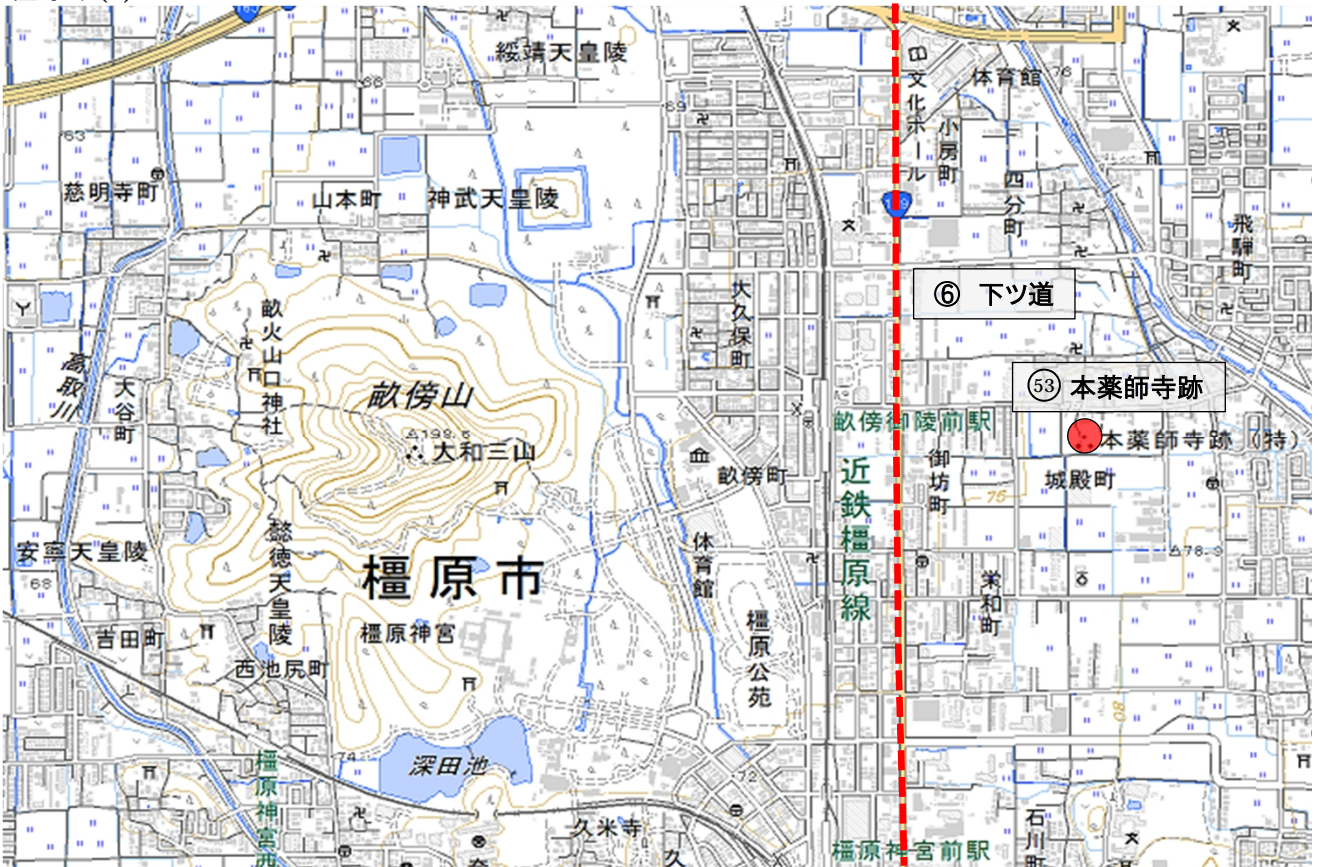




檜原市(2)



檀原市(3)

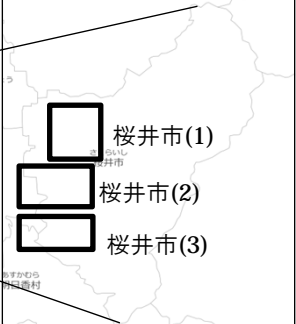




奈良県



桜井市

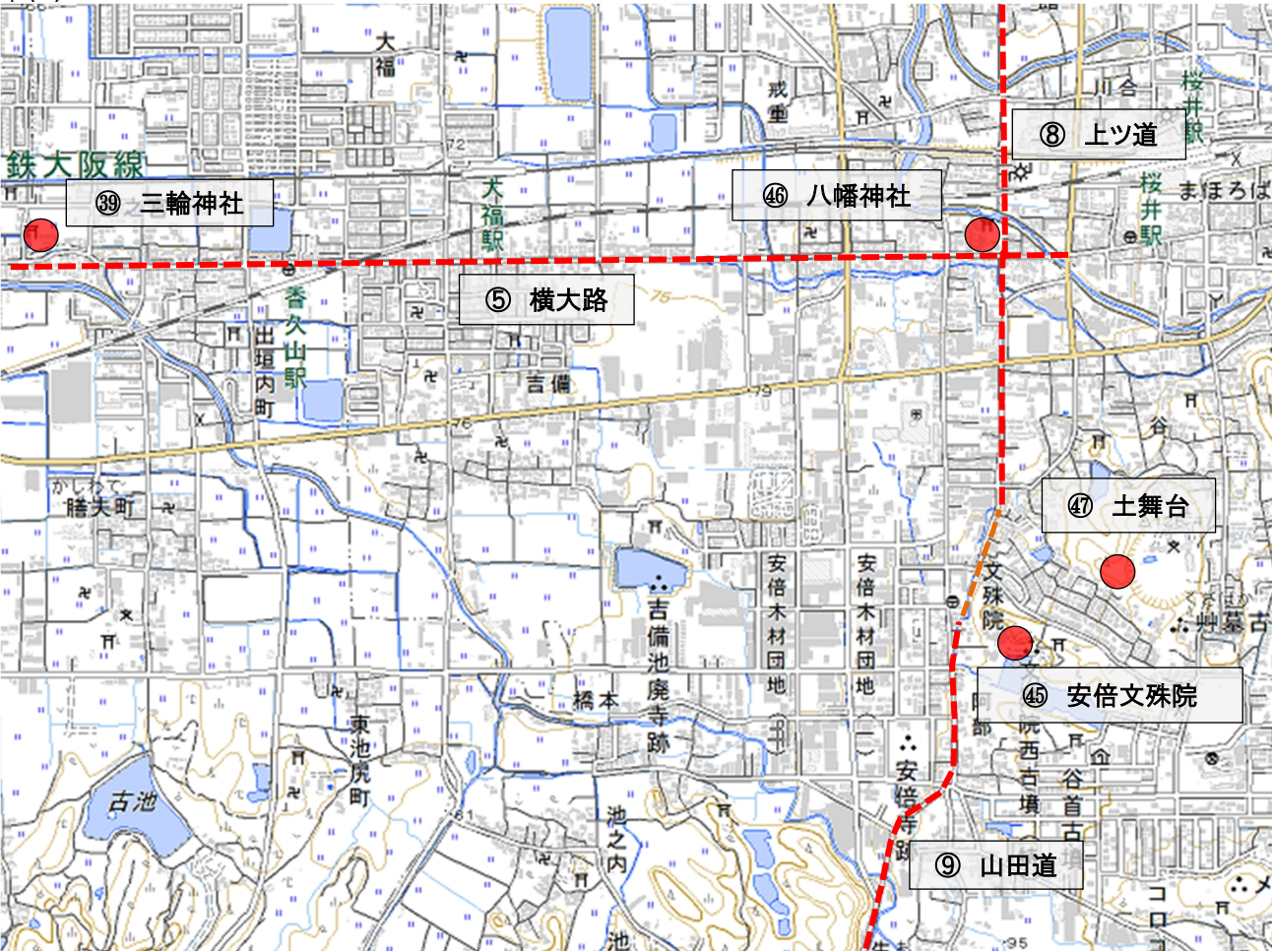


桜井市(1)





桜井市(2)

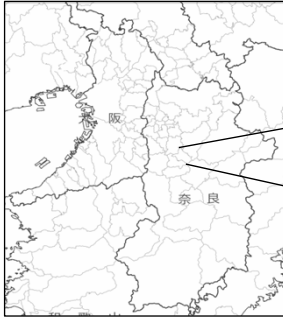


桜井市(3)





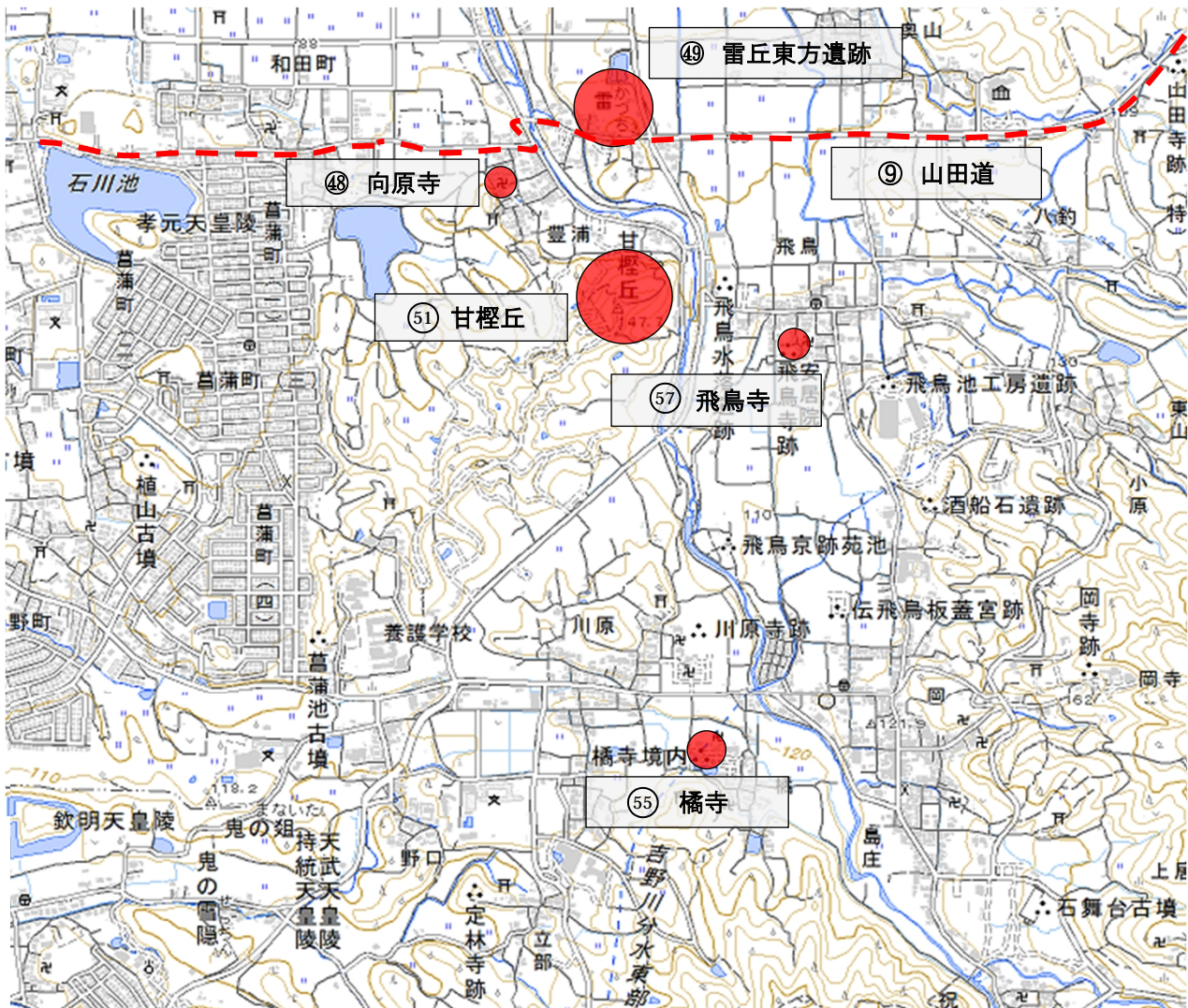
奈良県



明日香村



明日香村(1)



## ストーリー

## プロローグ ～『太陽の道・龍の道』～



三輪山から昇る朝日

春分と秋分の日々の年二回、太陽は三輪山の山頂に昇り、二上山 湾に沈む。太陽の軌道が、三輪山と二上山を直線で結び「太陽の道」となる。そして、その道はいつの日か三輪山の大神神社を頭、二上山の長尾神社を尾とする「龍の道」になぞらえられるようになった。古代の王権は、この東西の道に沿うように、三輪山のふもとから百舌鳥野にかけて大王墓としての巨大な前方後円墳を中心とする大小の古墳からなる古墳

群を築いた。葺石と土製の埴輪で飾られ、白く輝いていた古墳は、時を経て緑の木々に覆われた山に姿を変えた。街道沿いの白鳥陵古墳は水をたたえた濠に古墳の緑が映えて美しく、道ゆく人たちを楽しませる。竹内街道・横大路（大道）はまさにこの地に築かれ、常に歴史の舞台を見つめてきた。



白鳥陵古墳

## ◆「国道」の誕生 『難波より京に至るまでに大道を置く』

竹内街道・横大路（大道）は推古天皇 21 年（613）に外交の玄関口である難波津と政治の中心である飛鳥・小墾田宮をむすぶ「大道」として整備された総延長 40 km にもおよぶ我が国最古の国道である。

大道は難波京朱雀大路よりまっすぐ南下する難波大道、堺から河内を抜ける竹内街道、さらには奈良盆地を東西に走る横大路から飛鳥にいたる上・中・下の三つの道から構成される。

その後、この道を基準にして藤原京も造営され、今もおお東西南北の地割として残る。なかでも橿原市八木町では、古代と同じ 24m の道幅で道路が敷かれているため、当時の道の大きさを今も実感できる。

この道を通して中国や朝鮮半島からの外交使節、遣隋使・遣唐使によって多くの文物がもたらされた。それとともに仏教が伝来し、聖徳太子らによって多くの仏教寺院が道沿いに建立された。

野中寺や西琳寺では、飛鳥時代の塔跡の基壇や礎石を見ることができる。

聖徳太子ゆかりの四天王寺や叡福寺では、広大な寺院に荘厳な伽藍があり、当麻寺では、日本に唯一現存する天平時代の双塔式伽藍を拝観できる。



四天王寺



当麻寺 練供養会式

さらにこれらの寺院では、古式ゆかしい祭事が一年を通じて催されている。

その代表的なものは四天王寺で行われる聖霊会の舞楽や当麻寺で行われる練供養会式があり、古代の雰囲気を感じることができる。

古代を感じることができるもう一つの舞台は、大阪と奈良の境にある二上山を越える太子町から葛城市までの道中である。岩屋峠はサヌカイトや凝灰岩の産地として知られており、日本では珍しい石窟寺院である、鹿谷寺と岩屋窟がひっそりと建つ。また二上山の麓の太子町は、敏達天皇、用明天皇、推古天皇、孝徳天皇、そして聖徳太子が祀られており、王陵の谷とも呼ばれる。さらにこの地は古来河内飛鳥・近つ飛鳥とも言われ、大和の飛鳥から飛鳥人が往来した道でもある。



推古天皇陵古墳

日本の国家としての歩みは、この大道から始まり、我々はその歴史的な証を目にすることができる。

## ◆「経済の道」～海の堺・陸の今井～

脈々と受け継がれてきたこの大道は、時代が下り中世になると、町々を結び物資を運ぶ街道となった。なかでも街道の西端の堺と東端の今井町は、中世における我が国の経済を牽引する二大都市となる。

堺は室町時代に南蛮貿易や日明貿易の港湾都市として大きな経済力を持った。大阪湾 かつて は、残りの三方に深い濠をめぐらし、自治都市「堺」を築いた。フランシスコ・ザビエルをはじめとする多 スト教宣教師たちがこの地を訪れ、ルイス・フロイスには「日本のヴェニス」とまで言わしめた。は金属 の拠点としても名をはせた。竹内街道と中高野街道の交差する付近(旧河内国八上郡、丹南郡)には、「河内鑄物師」とよばれる技術者がおり、鎌倉時代には東大寺の大仏の修復や鎌倉大仏の鑄造に関わった。時代 、 ！では鉄砲や



刀が生産され、現在、包丁をはじめとする堺刃物に伝わったともされており、世界的にも有名である。今でも鉄砲鍛冶屋敷や江戸時代の町家残り、打刃物を鍛える音が響く。さらに利休が堺から広めた「茶の湯」文化の影響が今も随所に残り、老舗の和菓子店が街歩きのにアクセントを添えてくれる。



堺市の鍛冶職人



堺市の茶の湯体験

街道沿いには、一向宗本願寺の進出によりいくつかの寺内町が形成された。中でも今井町は、戦国時代に称念寺の寺内町となり、堺同様に、堀に囲まれた自治都市が築かれた。織田信長に抵抗を続けていたが、その後、降伏し、明智光秀や堺の豪商の仲介を経て和解すると、信長によって自治権が与えられ、大和の経済の中心地へと成長した。

このように両町は東南アジア諸国との交易等を通して密接に結びつき、「海の堺、陸の今井」として、戦国時代～江戸初期の日本経済を築き上げた。



堺まつり



今井町の町並み

### ◆「信仰の道」～伊勢参り～

江戸時代になると、街道は大阪と奈良から伊勢へと繋ぐ伊勢神宮参拝の「お蔭参り」の道へとその役割を変化させていった。今でも太子から葛城にいたる道中には、その要所にお参りのための神社や伊勢への道しるべとなる灯籠、道標が残り、かつてこの街が旅籠や茶屋で賑わっていた面影を残す。また八木札の辻や今井町は、今も江戸時代の町並みを残し、約500棟の伝統的建造物が並ぶ。街なかでは、古民家を活用した宿泊施設やカフェなどが、旅人に憩いを与えてくれる。

このように江戸時代以降、この街道は庶民の信仰の道として賑わい、人々のさまざまな想いを運ぶ役割を果たしていたのだ。



春の観福寺



太子町の町並み

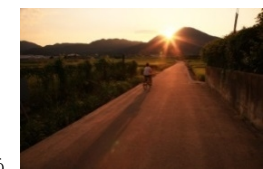


冬の今井町

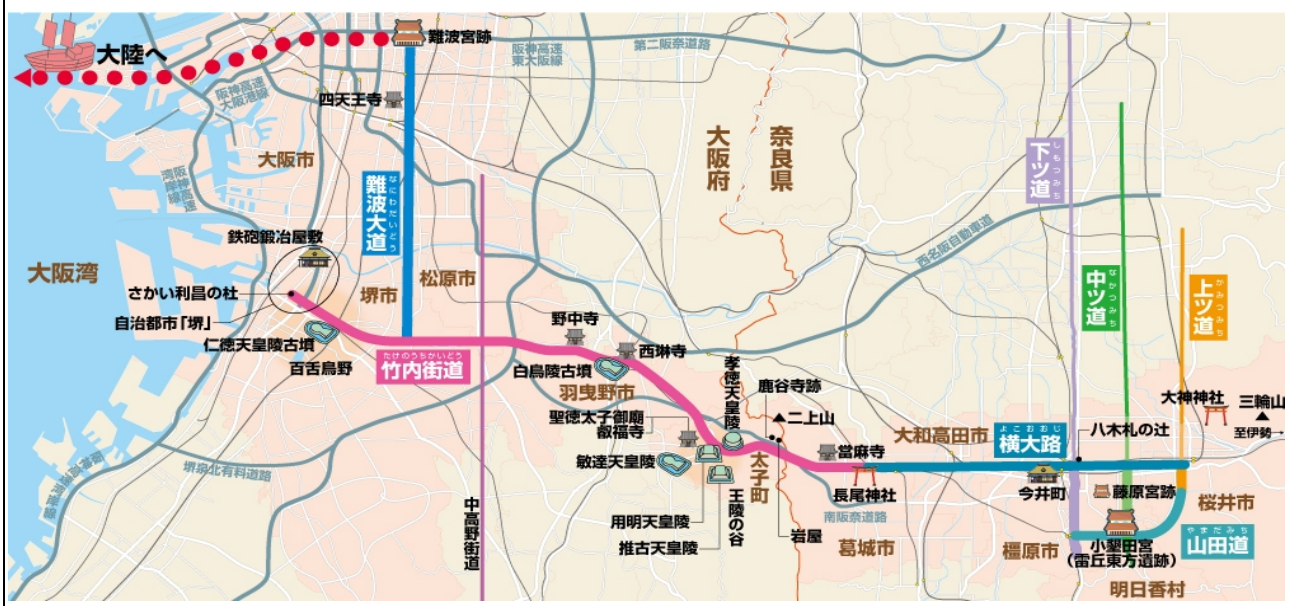
### エピローグ

かつて聖徳太子は隋の皇帝煬帝に宛てて「日出ずる処の天子、書を日没する処の天子に致す。」と書いた国書を小野妹子に託した。飛鳥の都から難波を経て遣隋使を送り、また、大陸からの使者を迎えたこの道は、脈々と流れる歴史の中で様々な「人」「物」「文化」が行き交い、時代に応じて少しずつその役割を変えつつも今も活き続ける。

道沿いの歴史遺産を通して 1400 年もの歴史の移り変わりを感じ、私たちを時間旅行へと誘う道。それが竹内街道と横大路なのである。



二上山へ沈む夕日



## ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	なにわのみやあと 難波宮跡	国指定史跡	大化改新にともなう難波遷都以来約 150 年間、難波宮は日本の古代史上に大きな役割を果たした。外交の窓口である難波津と飛鳥京を結ぶ道の起点となる。	大阪府大阪市
②	してんのうじ 四天王寺	国指定重要文化財(六時堂、本坊西通用門、本坊方丈、五智光院、元三大師堂、石舞台、鳥居) 国指定史跡	難波宮から真っ直ぐ南に伸びる難波京朱雀大路の西側に、聖徳太子により創建された。飛鳥寺と並びわが国最古の仏教寺院であり、難波に上陸し飛鳥京に向かう大陸からの使者が最初に見ることになる古代寺院。	大阪府大阪市
③	なにわきょうすざくおおじ 難波京朱雀大路・ なにわだいどう 難波大道	未指定	「難波京朱雀大路(なにわきょうすざくおおじ)・難波大道(なにわだいどう)」は、大阪市中心部・天王寺区に広がる難波京のメインストリートである朱雀大路と、さらに南に延びて堺市の金岡神社に至り、竹内街道と交差する直線道路である。大阪市天王寺区には「大道」、竹内街道との交差点である堺市金岡町の金岡神社東側には「大道町」の地名が残る。	大阪府大阪市、 大阪府堺市、 大阪府松原市
④	たけのうちかいどう 竹内街道	未指定	竹内街道は、堺市の大小路から奈良県葛城市の長尾神社に至る全長約 30 km の街道である。難波の港に着いた最新の文化や技術もこの道を通って飛鳥へ運ばれた。長尾神社から東側は、奈良盆地を東西に横切る横大路とつながる。	大阪府堺市、 大阪府松原市、 大阪府羽曳野市、 大阪府 南河内郡太子町、 奈良県葛城市

⑤	よこおおじ 横大路	未指定	奈良盆地を真東西に結ぶ道。難波から飛鳥京、藤原京などを結ぶ古代の官道をもとにし近世には、大阪や西日本各地から渡辺津で船を降りた人の伊勢参りへの道として賑わう。大阪と大和国との商業流通の生活の道でもあり、大阪側では、竹内街道につながり、奈良盆地南部を東西に一直線に結んで初瀬街道に通じる。	奈良県葛城市、 奈良県大和高田市、 奈良県橿原市、 奈良県桜井市
⑥	しもつみち 下ツ道	未指定	奈良盆地を南北に貫く古代の官道。道の南端は丸山古墳の北側で、札の辻で横大路と交差し、平城京羅城門があったとされる大和郡山市観音寺に至る。	奈良県橿原市
⑦	なかつみち 中ツ道	未指定	奈良盆地を南北に貫く古代の官道で、下ツ道と上ツ道の中間に位置する。672年の壬申の乱の時、大和の戦場として「将軍が本営の飛鳥に帰ると、東国からの本隊の軍が続々やってきた。そこで、軍を分けて、それぞれ上道・中道・下道にあてて配備した。」という記述があることから、この時には、できていたと考えることができる。	奈良県橿原市
⑧	かみつみち 上ツ道	未指定	奈良盆地の東縁を南北に貫く古代の官道。桜井市街地付近で横大路と交差し、壬申の乱の戦場となった箸墓古墳の東側を通り、天理市へと続いている。その一部は中世以降に長谷・伊勢方面への参詣道となり、現在もその痕跡をとどめている。	奈良県桜井市
⑨	やまだみち 山田道	未指定	5・6世紀の宮の所在地であった磐余（いわれ）から南下して飛鳥を通過し、下ツ道の軽の衢へといたる古代の道。平安時代の説話集『日本霊異記（りょういき）』の雄略天皇の時代の記述に「阿倍山田の前の道」が登場する。	奈良県桜井市、 奈良県高市郡 明日香村

⑩	あぐちじんじゃ 開口神社	重要文化財 (大寺縁起) (伏見天皇宸翰 御歌集) 府指定有形文化 財 (開口文書)	中世の自治都市堺の南荘にあり、竹内街道の起点となる大小路からすぐ東側にある。武野紹鷗(たけのじょうおう)、千利休らの茶人や会合衆の寄進によって、修復がなされており、堺の中心的な氏神である。また、行基が境内に念仏寺を建立し、空海が宝塔を建てたので「大寺(おおてら)さん」とも呼ばれている。	大阪府堺市
⑪	かなおかじんじゃ 金岡神社	未指定	難波大道と竹内街道の交差点にあり、古くは住吉大神を祀っていたが、この後平安時代の宮廷画家でやまと絵の祖といわれる巨勢(こせ)金岡を合祀してから現在の名称に変わっている。神社の南を進むと道幅 3.5mの沿道に白壁の蔵や古い町家が並ぶ一画に出るが、この付近は「大道町」の地名を残している。	大阪府堺市
⑫	も ず こふんぐん 百舌鳥古墳群	国指定史跡	東西南北約 4 キロメートルの範囲に広がる古墳群で、古市古墳群と並んで独特な古墳文化を築き日本最大の仁徳天皇陵古墳をはじめとする 44 基の古墳が残っている。竹内街道は大小路を起点として、仁徳天皇陵古墳の北側を真っ直ぐ東西に伸びる。	大阪府堺市
⑬	さかいかんごう と し いせき 堺 環濠都市遺跡	未指定	中世に栄えた環濠を持った自治都市・貿易都市の遺跡。大阪夏の陣で焼失したが、その後再建され、江戸時代の街並みを残している。竹内街道は堺の北の荘と南の荘の境を分けるように大小路口から開口神社の南を通して東に向かう。	大阪府堺市
⑭	やまぐちけじゅうたく 山口家住宅	国指定重要文化財	堺が大阪夏の陣で焼失した直後に建てられた、国内でも珍しい江戸初期の住宅。当時の町家や暮らしぶりを知ることができます。	大阪府堺市
⑮	さかいうちものはも 堺 打刃物	未指定	古来から伝わる鍛鉄の技術が刀鍛冶や鉄砲の生産にひきつがれ、堺が自治都市として繁栄する一つの要因となる。江戸時代に入るとその技術から、出刃包丁をはじめとした包丁の開発につながった。	大阪府堺市

⑯	しんぶくじいせき おおい いせき 真福寺遺跡・太井遺跡・ あまべ ひ きしょういせき 余部日置 荘 遺跡	未指定	優れた鑄造技術をもつ「河内鑄物師」よばれた集団の活動拠点として奈良時代から中世にかけての集落跡・城館跡で、溶解炉・るつぼ・鞆羽口(ふいごはぐち)・鑄型片(いがたへん)をはじめ鑄物を鑄造したと考えられる土壌(どこう)等、鑄造関連の遺構・遺物がみつまっている。これらの遺跡は、竹内街道の南側、下高野街道と中高野街道上にあり交通の衝にあたる。	大阪府堺市
⑰	おかいせき たんなんいせき 岡遺跡・丹南遺跡	未指定	かつて「河内鑄物師(かわちいもじ)」の工房が多数存在した地域で、日本の金属製品生産の一大拠点であった。竹内街道と中高野街道の交差点であり、茶屋筋ともよばれた。	大阪府松原市
⑱	しばがきじんじゃ 柴籬神社	未指定	長尾街道と竹内街道のほぼ中央に位置する神社。美しい歯並びで、「端齒別尊(みずはわけのみこと)」とも呼ばれていた反正天皇を祀る。	大阪府松原市
⑲	やちゅうじ 野中寺	国指定史跡	竹内街道が羽曳野市野々上の集落に入り、街道から 340m北に飛鳥時代から白鳳時代にかけて創建された野中寺がある。聖徳太子の命で蘇我馬子が建てたと伝えられ、「中の太子」と呼ばれている。白鳳期を代表する弥勒菩薩半跏思惟像が境内には残る。	大阪府羽曳野市
⑳	さいりんじ 西琳寺	未指定	竹内街道と東高野街道が交差する蓑の辻から東に進むと道は鍵形に屈曲する。この北側に白鳳時代に創建された西琳寺がある。渡来系氏族の西文氏(かわちのふみうじ)によって建立された寺院で、巨大な礎石や屋根を飾った装飾豊かな鴟尾(しび)も出土しており、当時、絢爛豪華な寺院であったことが伺える。	大阪府羽曳野市

②①	こんだはちまんぐう 誉田八幡宮	国宝（塵地螺鈿金銅装神輿金銅透彫鞍金具） 国指定重要文化財（紙本著色神功皇后縁起 2 巻・絹本著色誉田宗廟縁起 3 巻・舞楽面 11 面・松皮菱螺鈿鏡鞍・剣 銘真守・太刀 銘則国・薙刀 無銘大和物・鉄蛭巻薙刀拵・伏見天皇宸翰後撰和歌集 巻第廿）	欽明（きんめい）天皇の頃、勅命で応神陵の前に創建されたと伝えられる八幡宮。拝観庫には源頼朝の寄進と伝えられる神輿をはじめ、数々の国宝・重要文化財が収められている。	大阪府羽曳野市
②②	ふるいちこふんぐん 古市古墳群	国指定史跡	東西 4.0km、南北 4.0km の範囲に広がる百舌鳥古墳群と並ぶ日本を代表する古墳群。全国第 2 位の大きさを持つ応神天皇陵古墳をはじめとする 45 基の古墳が現存する。白鳥陵古墳の北側を通る竹内街道の道筋からは、広い濠の水面に前方後円墳の美しい姿を見ることができる。	大阪府羽曳野市
②③	つきよみばし あすかがわ か ひ 月読橋・飛鳥川の歌碑	未指定	竹内街道と飛鳥川が交わる場所に架かる橋。その 50m ほど上流にある石碑には柿本人麻呂(かきのもとのひとまろ)の歌、「あすか河 もみじ葉ながる 葛城の 山の秋風吹きぞしぬらし」が刻まれる。	大阪府羽曳野市
②④	おののいもこぼ 小野妹子墓	未指定	竹内街道から太子町山田の餅屋橋で飛鳥川を渡って南に下ると、日本で初めて遣隋使として隋に派遣された小野妹子の墓にでる。科長神社の南側の小高い丘の上の塚が小野妹子の墓と伝えられる。	大阪府南河内郡太子町



②⑤	しながたにこふんぐん 磯長谷古墳群	未指定	太子町に入り春日の集落を越えて、道の南側には敏達、用明、推古天皇と聖徳太子が、道沿いの北側には孝徳天皇が祀られた5基の古墳があり、5弁の梅の花になぞらえて「梅鉢御陵」と言われる。国史跡二子塚古墳など30基の古墳からなる古墳群で、古墳時代の終わりから飛鳥時代に造営された。	大阪府南河内郡太子町
②⑥	えいふくじ 叡福寺	国指定重要文化財(聖霊殿、多宝塔) 府指定有形文化財(叡福寺金堂、鐘楼、叡福寺石塔五輪塔) 府指定史跡(境内)	竹内街道を東に進み太子町に入り、春日の集落を越えると南側に上の太子と称された叡福寺がある。聖徳太子御廟を守護するために、推古天皇によって建立され、奈良時代には聖武天皇が大伽藍を整備したと伝えられている。聖徳太子信仰の霊場として発展した。	大阪府南河内郡太子町
②⑦	いわや 岩屋	国指定史跡	大阪と奈良との府県境にある二上山を越える岩屋越え沿いにある。 奈良時代に造られた大小二基の石窟からなる石窟寺院で、鹿谷寺跡とともに、我が国唯一の「大陸風」石窟寺院であるが、文献記録もなく誰が作ったのかもわからない、謎の多い寺跡である。	大阪府南河内郡太子町
②⑧	ろくたんじあと 鹿谷寺跡	国指定史跡	岩屋同様、大阪と奈良との府県境にある二上山を越える岩屋越え沿いにあり、奈良時代に二上山麓の岩盤を掘り込んで造られた日本では珍しい「大陸風」の石窟寺院である。寺跡中心には十三重の石塔と岩窟に彫りこまれた線刻の三尊仏坐像が残っている。	大阪府南河内郡太子町
②⑨	だいどうきゅうやまもとけじゅうたく 大道旧山本家住宅	国登録有形文化財	竹内街道沿いの太子町山田餅屋橋のたもとにある民家で、この地域特有の大和棟の形態をよく残し、街道の面影を伝える住宅である。	大阪府南河内郡太子町
③⑩	たけのうちとうげ 竹内峠	未指定	江戸時代、「お陰参り」の道として人々が竹内峠を往来した。1876年の堺県による奈良県併合を機に峠の改修工事が行われ、南大阪と大和を結ぶ重要な道として整備された。	大阪府南河内郡太子町、 奈良県葛城市

③①	ながおじんじゃ 長尾神社	未指定	竹内街道の始発・終着点となる神社であり、横大路の西端に位置する。東に向かえば横大路、伊勢街道、西に向かえば竹内街道、長尾街道、南に向かえば高野街道と複数の歴史街道が交わり、交通の要であったことから、古くから旅の安全を祈願する旅人に信仰された。また大和に住んでいた巨大な大蛇の頭が三輪明神、尾は長尾神社と言い伝えられている。	奈良県葛城市
③②	たいまでら 當麻寺	国宝国指定重要文化財国指定史跡・名勝 県指定有形文化財	竹内街道の北に位置し、 <b>681</b> 年當麻国見により現在地に建立されたと伝わる。奈良時代、當麻曼荼羅が中将姫によって一夜にして織り成されたと伝わる、中将姫伝説ゆかりの地。中将姫の命日とされる <b>5 月 14 日</b> の聖衆来迎練供養会式（當麻寺練供養）は、 <b>2017</b> 年で <b>1013</b> 回目を迎える。また、真言宗と浄土宗の両宗派の塔頭が集まった全国的に珍しい寺院である。	奈良県葛城市
③③	せっこうじ 石光寺	県指定有形文化財（石造如来坐像）	竹内街道の北に位置し、白鳳期の石造如来坐像、塙仏、古瓦、礎石等が出土し、創建は飛鳥時代後期と考えられている。昔この地に夜ごと光る石があり、それを刻み弥勒三尊仏とし御堂が建立されたことから石光寺と名付く。奈良時代、中将姫が當麻曼荼羅を織る蓮糸を、この寺の井戸の水に浸すと、五色に染まったと伝わる。中将姫伝説ゆかりの地。	奈良県葛城市
③④	おくだはすとりぎょうじ 奥田蓮取り行事	県指定無形民俗文化財	毎年 <b>7 月 7 日</b> の七夕の日に奥田の捨篠池において「蓮取り行事」が行われる。室町時代から庶民信仰のひとつで、「蓮華会(れんげえ)」の一連の行事である。修験者によって道中の祠に献花されながら吉野山金峯山寺・蔵王堂での「蓮華会」「蛙飛び行事」に参加し、そのあと大峰山頂上までの祠に供えられる。	奈良県大和高田市

③⑤	せんりゅうじ じないちょう 専立寺・寺内町	市指定文化財 (太鼓楼・表門・築地塀)	1600年の創建で「高田御坊」ともいわれる。横大路の北側に隣接し、専立寺を中心に寺内町が発展し、今日の商いのまちの礎が築かれた。江戸・明治・大正・昭和の町並みを見ることができる歴史地区。	奈良県大和高田市
③⑥	たいじんぐう たかとうろう 太神宮の高燈籠	未指定	大和平野を東西に貫く横大路を東から高田に入る位置に建つ高燈籠。往時、伊勢大神宮をめざす「御陰参り」などの、旅の道しるべとして明かりが灯された。	奈良県大和高田市
③⑦	やぎのふだ つじ 八木札の辻	市指定文化財 (東の平田家)	「下ツ道」と「横大路」の交差点が「八木札の辻」で、古代からの交通の要衝。近世・江戸時代には伊勢参りや大峯への参詣巡礼などで賑わう。	奈良県橿原市
③⑧	おおみわじんじゃ 大神神社	国指定史跡 (境内)国指定重要文化財 (拝殿・三ツ鳥居)県指定有形文化財(勅使殿・勤番所)	三輪山の西麓に鎮座する。本殿を設けず、三ツ鳥居を通してご神体である三輪山を拝するという、古代の神社形態を今に伝えている。その祭祀のはじまりは崇神天皇の時代に遡るとされ、我が国最古の神社と呼ばれている。	奈良県桜井市
③⑨	みわじんしゃ 三輪神社	未指定	横大路と中ツ道との交差部に鎮座する神社。境内に礎石が存在し、江戸時代は「おかげ参り」の目印であった大きなケヤキの古木が鳥居脇に建っていた。	奈良県桜井市
④⑩	りゅうおうぐう 龍王宮	未指定	竹内街道の南側に位置する龍王宮は、石園坐多久虫玉神社(いそのにますたくむしたまじんじゃ)といい、崇神天皇の時代に勅祭が行われたと伝わる延喜式内社。本社は安寧天皇の片塩浮孔宮跡と伝わり、付近からは土器・木棺・埴輪・七鈴鏡などが多数発掘されている。	奈良県大和高田市
④⑪	はせほんじ 長谷本寺	県指定文化財 (長谷寺型十一面観音菩薩像)	8世紀初頭の創建の寺院。横大路に面し、傍には道標が残る。本尊の十一面観音菩薩像は、桜井市の長谷寺本尊の十一面観音菩薩像と同木で刻まれたと伝わる。	奈良県大和高田市

④②	ふどういん だいにちどう 不動院 (大日堂)	国指定重要文化財	横大路の北側に位置し、聖徳太子の創建と言われ、 <b>1483</b> 年、高田城主当麻為長が本堂を建立し、本尊の大日如来像は鎌倉時代に造られた。	奈良県大和高田市
④③	いまいちょう 今井町	重要伝統的建造物群保存地区	今井町は、戦国時代末期に一向宗道場の寺内町として成立。織田信長に降伏し、自治権を認められるほど栄え、「海の堺、陸の今井」と称された。今も約 <b>500</b> 棟の伝統的建造物が残る。	奈良県橿原市
④④	だいじんぐうとうろう 太神宮灯籠	未指定	江戸時代、伊勢神宮への「おかげ参り」の道標として、横大路沿いに建てられた。この灯籠は、当時、参詣者へのもてなし（おかげ）がされた「接待場」から <b>200m</b> 西へ移築したもの。	奈良県橿原市
④⑤	あべもんじゆいん 安倍文殊院	県指定有形文化財(庫裏) 市指定文化財(本堂)	古代の有力氏族である安倍氏が建立した安倍寺から続く寺院であり、中世に現在の位置に移転したとされる。日本三文殊の一つで、山田道の傍に位置する。本尊の文殊菩薩像は快慶作で、国宝に指定されている。	奈良県桜井市
④⑥	はちまんじんじゃ 八幡神社	未指定	横大路と上ツ道の交差点付近に位置する神社。境内には、江戸時代に奉献された石造狛犬や石燈籠などがある。	奈良県桜井市
④⑦	つちぶたい 土舞台	未指定	『日本書紀』推古紀に、百済人味摩之が桜井の地にて少年を集め、伎楽舞を習わしめたという記述がある。桜井市大字谷の土舞台はその伝習の地として顕彰され、「日本芸能発祥の地」とも言われている。	奈良県桜井市
④⑧	こうげんじ 向原寺 とゆらのみや・とゆらでらあと (豊浦宮・豊浦寺跡)	未指定	山田道の南側に位置する。起源は <b>6</b> 世紀の仏教伝来の頃までさかのぼり、『日本書紀』によると <b>552</b> 年に百済の聖明王が初めて我が国に仏像、仏典をもたらしたとき、蘇我稲目が仏像を譲り受け、向原の家を浄めて寺にしたとされる。	奈良県高市郡明日香村

④9	いかづちのおかとうほういせき 雷 丘東方遺跡	未指定	推古天皇は自身が即位した豊浦宮から山田道沿いの小墾田宮（雷丘東方遺跡）に遷宮し、聖徳太子、蘇我氏らとともに、冠位十二階や十七条憲法の制定、遣隋使の派遣などの重要政策をおこなった。	奈良県高市郡 明日香村
⑤0	やまだでらあと 山田寺跡	国指定特別史跡	乙巳の変(大化の改新)の功臣蘇我倉山田石川麻呂によって発願された古代寺院。発掘調査により、7世紀に創建された寺院のほぼ全容が明らかとなっている。なかでも倒壊した状態で出土した回廊は、わが国最古の木造建築様式を示すものとして注目されている。	奈良県桜井市
⑤1	あまかしのおか 甘 檜 丘	未指定	山田道の南に位置し、古くは盟神探湯の神事が行われた場として伝わる。大化の改新以前は蘇我蝦夷・入鹿親子が権勢を示すために邸宅が営まれていた場所であったと言われ、頂上から大和三山や藤原京を一望することができる。	奈良県高市郡 明日香村
⑤2	かんのみ おふさ観音	未指定	下ツ道沿いに位置し、正式名を高野山真言宗別格本山観音寺とう。本尊の十一面観音で、近年老人病封じを願う人々が多く訪れるようになっている。	奈良県橿原市
⑤3	もとやくしじあと 本薬師寺跡	国指定特別史跡	下ツ道の東に位置し、奈良・西の京にある薬師寺の前身にあたる寺で、天武天皇が皇后の病氣平癒を祈願して、680年に建立に着手。皇后・持統天皇がその遺志を継いで完成させた。	奈良県橿原市
⑤4	ふじわらきゅうせき 藤原宮跡	国指定特別史跡	約 1300 年前、持統・文武・元明の三代の天皇が治めた都の藤原京にあった宮で、日本で初めて造られた瓦葺の宮殿。内部には政治の中核となる施設のほか、天皇や皇后の住まいである内裏、行政の実務をおこなう官衙がおかれた。	奈良県橿原市
⑤5	たちばなでら 橘 寺	国指定史跡	中ツ道の西側に位置する聖徳太子誕生の地で、太子が用明天皇の別宮を寺に改めたといわれる。聖徳太子建立七大寺のひとつ。皇族・貴族の庇護を受け栄えた。	奈良県高市郡 明日香村

⑤6	かぐやま 香具山	国指定名勝	中ツ道の東に位置し、古代から「天」という尊称が付くほど神聖視され、万葉集にも数多く歌われた大和三山の一つ。	奈良県橿原市
⑤7	あすかでら 飛鳥寺	国指定史跡	中ツ道の東に位置し、588年蘇我馬子が建てたと伝わる日本最古の仏教寺院。大化の改新の主役、中大兄皇子と中臣鎌足が知り合ったのも飛鳥の蹴鞠（けまり）の会であったといわれている。	奈良県高市郡 明日香村

(※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

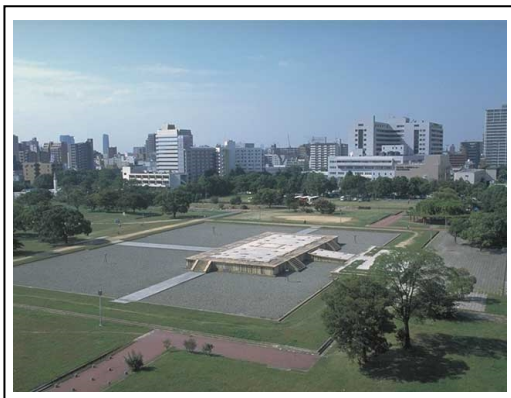
(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、県有形、市無形等）。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

## 構成文化財の写真一覧

① 難波宮跡



④ 竹内街道



② 四天王寺



⑤ 横大路



③ 難波京朱雀大路・難波大道



⑥ 下ツ道





⑦ 中ツ道



⑩ 開口神社



⑧ 上ツ道



⑪ 金岡神社



⑨ 山田道



⑫ 百舌鳥古墳群(仁徳天皇陵古墳)





⑬ 堺環濠都市遺跡



⑮ 堺打刃物



⑭ 山口家住宅



⑯ 真福寺遺跡・太井遺跡・余部日置荘遺跡



⑭ 山口家住宅



⑯ 真福寺遺跡・太井遺跡・余部日置荘遺跡  
(太井遺跡)



⑪ 岡遺跡・丹南遺跡



⑪ 野中寺



⑪ 柴籬神社



⑪ 野中寺



⑪ 柴籬神社(歯神さん)



⑫ 西琳寺





②① 菅田八幡宮



②④ 小野妹子墓



②② 古市古墳群(白鳥陵古墳)



②⑤ 磯長谷古墳群(推古天皇陵)



②③ 月読橋・飛鳥川の歌碑



②⑥ 叡福寺(聖徳太子御廟)





②⑥ 叡福寺(多宝塔)



②⑨ 大道旧山本家住宅



②⑦ 岩屋



②⑨ 大道旧山本家住宅



②⑧ 鹿谷寺跡



③⑩ 竹内峠





③① 長尾神社



③④ 奥田蓮取り行事



③② 當麻寺



③⑤ 専立寺・寺内町



③③ 石光寺



③⑥ 太神宮の高燈籠





③⑦ 八木札の辻



④⑩ 龍王宮



③⑧ 大神神社



④① 長谷本寺



③⑨ 三輪神社



④② 不動院 (大日堂)



④3 今井町



④6 八幡神社



④4 太神宮灯籠



④7 土舞台



④5 安倍文殊院



④8 向原寺 (豊浦宮・豊浦寺跡)





④8 向原寺 (豊浦宮・豊浦寺跡)



⑤1 甘樫丘



④9 雷丘東方遺跡



⑤1 甘樫丘



⑤0 山田寺跡



⑤2 おふさ観音



⑤3 本薬師寺跡



⑤4 藤原宮跡



⑤3 本薬師寺跡



⑤4 藤原宮跡



⑤4 藤原宮跡



⑤5 橘寺





⑤6 香久山



⑤7 飛鳥寺

